

児童発達支援 事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年6月18日

事業所名:児童発達支援センターポッポ

区分	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		年中・年長児グループが体をいっぱい動かして遊ぶには、少し部屋が狭く感じる時があるが、中庭を利用したり、2クラスが同じ療育時間であれば交代で使用するなどの工夫をしている。また、園庭や公園など園外で遊ぶことも大切にしている。	
	2 職員配置数は適切であるか	○		指定基準より多く職員を配置している。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		・遊びと生活で部屋を分けたり、パーテーションを使用するなどして活動を分かりやすくしている。 ・必要に応じて、グループで使う棚や下駄箱に個別のマークを貼り、分かりやすくしたり、その日の取り組みを写真や絵で伝えたりするなどの配慮をしている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		・療育終了後には清掃を行い、週1回は普段行き届かない箇所の掃除も行う。 ・大型マットやトランポリン、すべり台や吊りブランコなど、他児と一緒に体を使った遊びが楽しめる部屋(空間)がある。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		・療育に関してはグループの職員全体で話し合いの場を設けている。 ・職員会議等で業務運営に対して意見を交わす場を設けている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		利用者満足度調査を実施し、その集計結果といただいたご意見はファイルに綴じ、閲覧できるようにしている。また、ご意見の中ですぐに対応ができることに関しては速やかに行なった。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		ホームページ上で公開、または保護者ルームで自由に閲覧してもらえるようにファイルに綴じ、置いている。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		運営の基本姿勢として反映させている。	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		・内部研修だけでなく、外部研修への参加の機会も確保している。 ・内部で研修委員会を設置し、系統的に職員が研修を受けスキルアップを図っていけるようにしている。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		グループ職員で会議をもち、子どもの全体像や変化を一致させた上で作成をしている。	
	11 子どもの適応行動の状況を計るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		STによる言語相談や心理士による発達相談の結果をグループ職員に共有し、支援に活かしている。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		「発達支援」を中心に、「保護者支援」「地域支援」という項目にも具体的な支援内容を記述するようにしている。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		計画書の内容をもとに日々の遊びや活動内容を検討したり、振り返りを行っている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		グループで前回の遊びを振り返りながら、活動プログラムを考えている。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		・毎回の振り返りで出合う子どもの姿を出発点に次の遊びの内容を検討している。 ・様々なアイデアを出しながら遊びを提供している。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○		小集団での遊びを大切にしているが、状況に応じて個別対応を行っている。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		打ち合わせの中で、遊びの内容や役割分担、準備物等を丁寧に確認している。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		療育後には振り返りを行い、子どもの様子や気づき等を丁寧に話し合い、共有している。また、職員一人ひとりが自らの関わりを振り返る機会としている。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		振り返りの中で記録をとることを徹底している。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		半年ごとにモニタリングを行い、計画を見直している。		

区分	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画しているか	○		担当職員が参加している。	今後、相談支援事業所としてのあり方については日々の療育業務との兼ね合いがあるため、引き続き検討をしていく。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		園長や主任、保護者担当が中心になり、必要に応じて連携を行っている。連配をすることで保護者の子育てを支えていけるように心がけている。	
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○		関係機関とは密に連携をとりながら支援することを心がけている。	
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○		看護師の配置がないこともあり、より関係機関とは密に連携をとることを心がけている。	
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		・グループの担当が関係機関に訪問したり、連絡をとったりしながら情報共有を行っている。 ・年長までには、ほぼ全員を対象に保育園・幼稚園訪問を行い、情報共有と相互理解をはかった。	
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		・必要に応じて保護者に就学支援シートの記入方法のアドバイスを行ったり、学校に向けて電話や文書での情報共有を行っている。また「卒園児保護者のつどい」を年に数回、(卒園から一年間)開催し、保護者の方が相談先を緩やかに移行できるように支援している。	
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		児童発達支援センターや事業所と連携し、情報共有や研修などを行っている。	
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○	交流の機会はプライバシー保護のため設けていない。	令和6年度からは保育所等訪問支援等を開始する。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		北部圏域の自立支援協議会児童部会をはじめ、地域の子ども・子育て会議等に参加している。	
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		日々の活動の様子についてはその都度グループの職員が保護者に伝えたり、保護者担当が保護者との話し合いの場や面談の中で共通理解が図れるように努めている。	
31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		グループでの話し合いで出された子育ての困りや悩みに保護者担当が応えたり、一緒に考えたりしている。保護者の方が少しでも楽しく、ゆつくりと我が子の発達に寄り添いながら子育てをしてもらえるように支援を行っている。		
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		主には園長が説明を行っている。	
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		保護者の希望・子どもの姿や変化等に基づき支援計画書を作成している。また、保護者にも丁寧に説明をし、同意を得ている。	
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		保護者担当が毎回話し合いの場をもち、相談に応じている。また、個別の相談にも応じている。	
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会などを開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		担当職員が父母の会と連携をとり、相談・助言を行っている。催しがある際は、保護者が気持ちよく参加できるように、環境設定等のフォローをしている。	
	36 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		・苦情解決窓口の職員を設置している。 ・苦情があった場合は迅速に丁寧に対応している。 ・常日頃から十分コミュニケーションをとるように職員全員で意識している。	
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		未就園グループの方には毎月お便りを発行して行事などの案内を行っている他、併行通園グループの方にも随時、お便りを配布している。また、活動内容についてはホームページ上のブログを随時更新し、紹介している。	
	38 個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		個人情報は法人の規定に従い、適切に管理している。	
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		必要に応じて個別に伝える等の工夫をしている。	
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		コロナ禍で長らく中止になっていたが、今年度は北山ふれあいセンターまつりを開催することができ、多くの地域住民に参加していただいた。	

区分	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時などの対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		・緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員に周知している。 ・児童や保護者も交えての避難訓練を実施している。	災害後も速やかに事業が再開できるようにシミュレーション(訓練)を行う。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		月に1回、防災・避難訓練を行っている。	
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		保護者に記載していただく療育相談票に項目があり、面接時に確認している。	
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		医師の指示書をもとに保護者からアレルギーチェック表を記載・提出していただいている。	
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		朝礼にて事例を共有し、確認できている。	
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		年に1回職員会議(研修)などで研修を行っている。	
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	—		現在、身体拘束が必要な児童は在籍しない。	